

K120.73

34

2

K120.73  
34  
2  
1916.6.10

尋常小學讀本唱歌下卷

目次

一 のあそび	一
一 たうろ	二
一 夕立	四
一 元寇	六
一 としのくれ	八
一 北白川宮	十
一 春の遊	十二

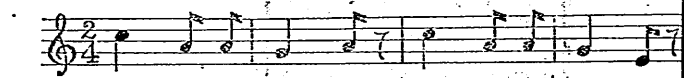
以上

目次

一 日本國	十四
一 停車場	十六
一 燈臺	十八
一 新聞紙	二十
一 軍人	二十二
一 わが帝國	二十四

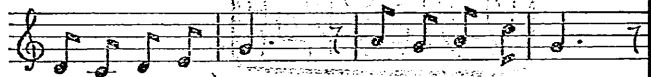
明治  
37 5 18  
内交

# のあそび

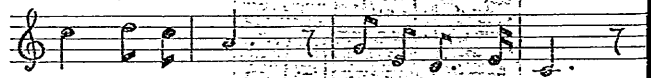


下巻

1 6 6 5 6 0 1 6 6 5 3 0  
 ハはト ルガガ キタハルガ キタク

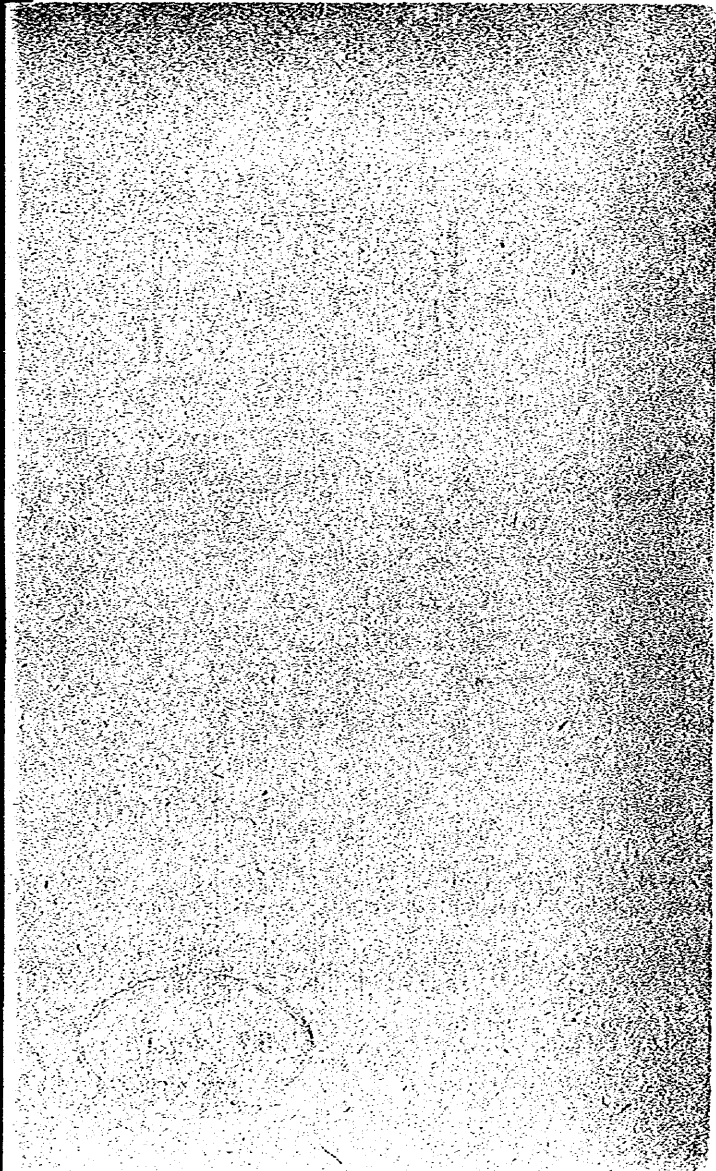


2 1 2 3 5 0 6 5 6 1 5 0  
 ドココニキ タク ヤマニキ タク



1 2 1 6 0 5 3 2 3 1 0  
 ノニキ タク トトニキ タク

春がきた。春がきた。  
 山に、来た。  
 野に、来た。  
 さとに、来た。  
 花がさく。花がさく。  
 さとに、さく。  
 山に、さく。  
 野に、さく。  
 さとに、さく。  
 鳥がなく。鳥がなく。  
 さとに、なく。  
 山で、なく。  
 野で、なく。  
 さとに、なく。



たうゑ



5 1 1 1 | 5 2 2 2 | 3 3 2 1 | 2. 0

イマハー イソガシ タウエド キ  
これから たびたび たぐさどり

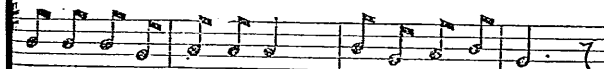
下巻

たうゑ



3 3 3 1 | 2 2 2 | 3 1 2 3 | 3. 0

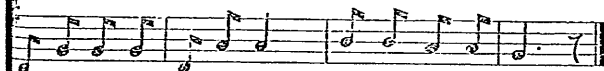
ココデ ハウマニ タチスカセ  
しだいに てかすが ふえていく



3 3 3 1 | 2 2 2 | 3 1 2 3 | 1. 4

ソコデ ハナヘヲ タニウエル  
どうぞー あきまで つぞーよく

二



5 1 1 1 | 5 2 2 | 3 3 2 2 | 1. 0

スカセル ウエル イソガシヤ  
てんきも つづけ あめもふれ

いまは、いをおし、

ここでは、馬に、

そこでは、苗を、

すかせる。うゑる。

これから、たびたび、

したいに、てかすが

どうぞ、あきまで、

天気もつづけ。

たうゑさま。

田をすかせ、

田に、うゑる。

いをおしや。」

田草 どり。

ふえ ていく。

つぞーよく、

雨も ふれ。」

下巻

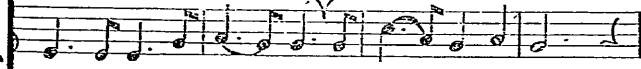
三

夕ゆふ 立たち



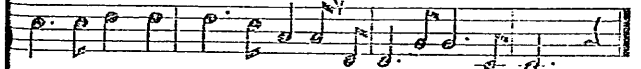
る。るるる | る。6るる | 3. 3 3 1 | 2. 0 0 0

ミルマニク - モルアライソラ  
またなるひ - かるそのうちに  
ツヅイテヒ - カルナルヒカル  
や - がてあめやみそらはれて



3. 3 3. 5 | 6. 5 5. 5 | 1. 6 5 6 | 5 - 0

カピカヒカ - ルイナ - ビカリ  
きのはとら - っやね - う - っ  
アメハダ - ンダンヒド - クナル  
いつかひが - ててにヒ - が - て



1. 1 2 2 | 2. 1 6 6 2 | 2. 5 3. 1 | 1 - 0

ナリダス カミナリゴロゴロゴロ  
ふりだす おほあめばらばらばら  
ノキバノ アマダレボチボチボチ  
くさきに しづくがきらきらきら

下巻

四

夕

立

見るまに、くもる  
ひかびか、ひかる  
なりたすかみなり、

青い空。  
いなびかり。

また、なる、ひかる、  
木のはをうつて、  
ふりたすおほあめ、

つづいて、光る。  
雨は、たんたん、  
のきはのあまたれ、

ぼちぼちぼち。  
ぼちぼちぼち。  
空はれて、  
れじが出て、

やがて、雨やみ、  
いつか、日が出て、  
草木に、しづくが、

さらさらさら。  
さらさらさら。

下巻

五

元 寇

5. 5. 1. 1. 6. 7. 1. 6. 5. 5. 5. 0  
 イ マ カ ラ ム シ ロ ビ ク ナ  
 わ マ が ト フ カ シ ロ ビ ク ナ  
 コ ノー ト キン オ カ シ ロ ビ ク ナ  
 あ ノー ト キン オ カ シ ロ ビ ク ナ

1. 7. 6. 5. 6. 6. 5. 1. 1. 2. 3. 2. 0  
 コ ロ ハ ア シン ヨ テ ナ ツ  
 オ ノ の く ン ギ ン タ カ め  
 ナ タ ー マ の は リ カ カ て  
 に げ た も の は リ カ カ て

5. 5. 3. 3. 4. 3. 2. 1. 2. 3. 4. 2. 5. 0  
 グ ン ノ ク ニ カ ラ フ ガ ク ニ  
 に つ ぼ ん だ ン ヒ の ラ デ ク ニ  
 テ ッ カ は シ こ せ ら ク ツ み よ  
 ッ カ は シ こ せ ら ク ツ み よ

3. 3. 2. 1. 6. 7. 1. 6. 5. 5. 3. 2. 1. 0  
 ヨ セ タ ル テ キ ハ シ フ ヤ シ マ タ リ  
 ス す ハ レ テ キ ハ シ フ ヤ シ マ タ リ  
 コ ハ レ テ キ ハ シ フ ヤ シ マ タ リ

下巻

六

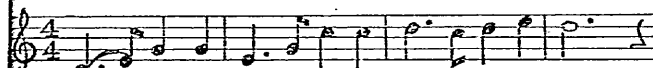
元 寇

今からむかし、六百年、  
 ころは弘安四年の夏、  
 元の國から、わが國に、  
 よせたるてきは十餘萬。」  
 わが日本の武士は、みな、  
 「おのれ、はつくき、元軍め。  
 日本男子のうで見よ。」と、  
 すすんで、てきをやぶりたり。  
 このとき、大風ふきあれて、  
 なみは、山より、また、高く、  
 てつかん、四千、くつがへり、  
 こはれて、海にしづみたり。」  
 あゝ。元軍の十餘萬、  
 にけたるものは、わづかにて、  
 あとは、のこらず、わが國の  
 海にしづみてしまひたり。」

下巻

七

とこのくれ



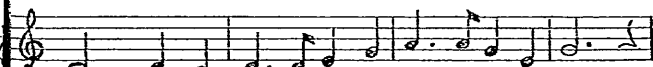
1. 3 5 5 3. 5 i i 2. i 2 5 | 2 - - 0

ハ ナ ガ サ イ タ ト イ フ ウ チ ニ  
は ー ナ ガ シ ヨ ヲ キ フ リ テ  
ト ー ち カ シ タ ヲ シ ヲ シ モ ト リ リ  
コ ー と し は す こ し だ が



6. 6 6 1 5. 5 5 6 5. 3 2 3 | 1 - - 0

イ ツ カ ノ ヤ マ ガ ア ア ナ リ  
し ろ ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー  
ハ ム ラ ナ ガ マ ナ ク ヤ ヤ ツ ミ ニ ハ  
モ ラ ナ ガ マ ナ ク ヤ ヤ ツ ミ ニ ハ



2 - 2 1 2. 2 3 5 6. 6 5 3 | 5 - - 0

ア ツ イ ア イ フ フ チ ニ  
あ ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー  
ヨ ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー  
あ ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー



1. 2 i 6 5. 6 5 3 | 2. 2 3 2 | 1 - - 0

イ ツ カ キ ノ ハ ガ ア カ ク ナ ル  
あ ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー  
ナ マ ス ム ル は ケ フ ト ゴ デ フ カ カ ス  
ヤ マ ス ム ル は ケ フ ト ゴ デ フ カ カ ス

下巻

八

「花がさいた。」  
いつか、野山が  
「あついで。あついで。」  
いつか、木のはが  
はちり、しもふり、  
白くなりたり、  
あー。今月は  
あー。もう、けふは  
十日たたぬに、  
花が、また、さく  
四年生にも、  
なまけることが  
こころは、すこし、  
もう、来年は、  
雨がふつても、  
休みはせんど。

いふうちね、  
青くなり、  
いふうちね、  
あかくなる。  
雪ふりて、  
山のみね。  
十二月。  
二十日すぎ。  
としもこり、  
四月には、  
ほくは、なる。  
をきはせん。  
休んたが、  
休まんぞ。  
さむくて、  
せい出すぞ。」

下巻

九

# 北白川宮



下卷

5. 5. 5. 5. | 6. 6. 5. 3. | 5. 3. 2. 1. | 2. 0  
 オホクノグンジンヒキツレテ  
 いくばにつよきニカカラレ

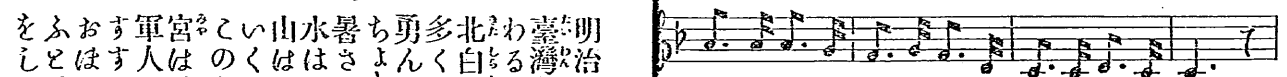
1. 1. 3. 3. | 2. 2. 1. 1. | 6. 6. 1. 6. | 5. 0  
 メイヂノニシフ一ハチ子ンニ  
 ちーヤハナクガツイトがツの  
 ミーヤハナクガツイトがツのズ

下卷



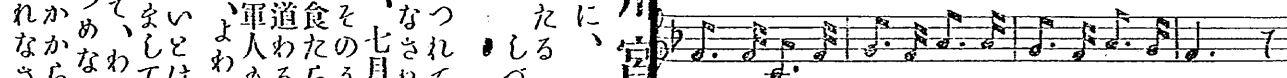
3. 3. 2. 1. | 6. 5. 1. 1. | 2. 1. 2. 3. | 1. 0  
 イサンのデンオオイデ一ナサレタ  
 こなのんやぎカはレナサレタ

6. 6. 1. 6. | 5. 5. 1. 1. | 2. 1. 2. 3. | 2. 0  
 タイソンのトニ一オコリタ  
 わつさんびしきハゲマシテ



3. 3. 3. 2. | 1. 2. 1. 6. | 5. 5. 6. 5. | 5. 0  
 ワルモブドすくモヲシメ  
 みスデセメテワルメ

3. 3. 3. 2. | 1. 2. 1. 6. | 5. 5. 6. 5. | 5. 0  
 ワルモブドすくモヲシメ  
 みスデセメテワルメ



1. 1. 5. 1. | 2. 1. 3. 3. | 2. 1. 3. 2. | 1. 0  
 キヤオタシマカハケオハシクメナサレ  
 オホシマカハケオハシクメナサレ

1. 1. 5. 1. | 2. 1. 3. 3. | 2. 1. 3. 2. | 1. 0  
 キヤオタシマカハケオハシクメナサレ  
 オホシマカハケオハシクメナサレ

## 北白川宮

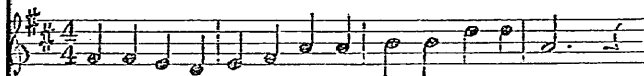
明治の二十八年に、  
 臺灣島におこりたる  
 わるものどもを、しづめんと、  
 北白川宮殿下、  
 多くの軍人ひきつれて、  
 勇んで、おいそなされたり。  
 ちよと、六月、七月の  
 暑さきびしき、そのうへに、  
 水はすくなく、食たらず、  
 山はけはしく、道わるし。  
 いくさにつよき軍人も、  
 このなんぎには、よわりたり。  
 宮は、なんぎをいどはれず、  
 軍人どもをはけまして、  
 すさんで、せめて、わるものを、  
 おほかた、おしづめなされしに、  
 ふと、御病氣にかかられて、  
 をしや、おかくれなされたり。

十一

十



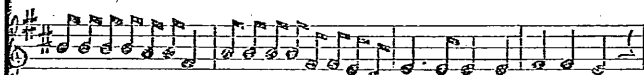
# 春の遊



3 3 2 1 | 2 3 5 5 | 6 6 1 1 | 5 - 0

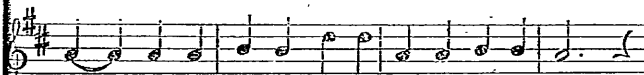
オニハニモモガサ イテキル  
こやまにさくらがさ いてゐる  
ノハラニスミレガサ イテキル

下  
卷



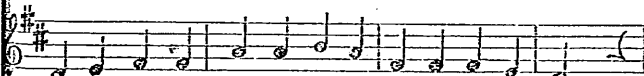
6 6 6 5 5 3 | 5 5 5 3 3 2 1 | 2 . 2 2 2 | 3 3 2 0

オニハノサキデ ナンナノコドモガ マリツキ アソビ  
こやまのうへでをどこのこどもが へいたい あそび  
ノハラノナカデ ミンナガイ ツシヨニ オニゴト アソビ



5 5 5 5 | 6 6 1 1 | 5 5 6 6 | 5 - 0

マ リ フ ツ ク オ ト ボ ン ボ ン ボ ン  
ら つ ば ー ム く お と ど て ち て た ー  
オ ニ ラ キ メ ル ヨ ジ ャ ン ケ ン ボ ン



1 2 3 3 | 5 5 6 5 | 3 3 3 2 | 1 - 0

カ ズ フ ヨ ム コ エ ヒ ー フ ー ミ  
か け る ヨ ム コ エ ヒ ー フ ー ミ  
せ ナ カ タ タ ク ヨ ト ン ト ン ト ン

十  
二

## 春の遊

お庭に、桃がさいてゐる。

お庭のさきで、

女の子もがまりつきあそび。

まりをつく音、ぼん、ぼん、ぼん。

かすをよむこゑ、ひー、ふー、みー。」

小山に櫻がさいてゐる。

小山の上で、

男の子もがへいたいあそび。

らつばふく音、とて、ちて、たー。

かけるこーれい、一、二、三。」

野原に、すみれがさいてゐる。

野原の中で、

みんなが、いつしよに、おれをこあそび。

おにをさめるよ。「じやん、けん、ぼん、ぼん。」

せなかたたくよ。どん、さん、さん。」

下  
卷

十  
三

# 日本の國

下巻

5. 5. 5. 5. | 6. 5. 3. 5. | 1. 2. 3. 1. | 2. 0. |  
 ニホンのくーにはやまのくに  
 3. 3. 2. 1. | 6. 1. 5. | 3. 3. 2. 3. | 1. 0. |  
 オホシマコシマソノナカヲ  
 おほたきこがはたにあひに  
 2. 2. 2. 1. | 3. 2. 1. 3. | 5. 5. 6. 6. | 5. 0. |  
 カーヨフシラホノオモシロヤ  
 おーちてながれておもしろや  
 3. 3. 2. 1. | 6. 1. 5. 5. | 3. 3. 2. 1. | 2. 0. |  
 ミニサキイリウミソノフチニ  
 おーてらおやしろのわひに  
 5. 6. 5. | 3. 3. 2. 1. | 2. 5. 3. 2. | 1. 0. |  
 ナミラブてまつくノキテオモシロヤ  
 下巻

日本の國は海の國。

大島、小島、その中を

通ふ白帆のおもしろや。

岬、入海、そのふちに、

ならお松の木おもしろや。」

日本の國は山の國。

大瀧、小川、谷あひに、

おちて、流れて、おもしろや。

お寺、お社、木のあひに

見えて、かくれて、おもしろや。」

停車場

5. 5 6 5 | 6 1 6 5 3 | 5 5 1 2 | 1 - - 0 |

ケ ム リ ヲ ハ イ テ キ シ ガ ク ル  
あ む ど を え き ふ が そ ー ヒ す

1. 1 3 5 | 2 2 3 1 0 | 3. 5 6 1 | 5 5. 6 5 0 |

リ ヲ カ ウ フ ス ル ヒ ト ミ オ ク リ ス ル ヒ ト  
え き の な よ ぶ こ へ と び ら の わ く お と

6. 6 6 5 | 6 1 6 5 3 | 5. 3 2 1 | 2 2 3 1 0 |

イ マ ッ タ ヒ ト ー フ バ ム カ ヘ ニ デ タ ヒ ト  
お り く る ひ と ー び と の り こ む ひ と び と

2. 2 2 1 | 2 3 4 5 5 | 6. 6 6 1 | 5 5. 6 5 0 |

ベ ン ト ー ツ ル ー ノ ハ ハ ツ ビ フ キ タ ヒ ト  
わ ひ た る よ ろ こ び わ か る る か な し み

2. 2 2 1 | 2 3 4 5 5 | 6. 6 6 1 | 5 5. 6 5 0 |

テ ニ モ ツ カ ツ ー イ デ ハ コ プ ハ ア カ ポ ー  
あ い さ つ さ ま ー さ ま こ と ば も み じ か く

1 1 2 1 | 6 1 6 5 | 6 5 6 1 | 5 - - 0 |

ガ ラ ン ガ ラ ン ト ベ ル ガ ナ ル  
や が て き し ー さ り ひ と ち り て

停車場

旅行をする人。 みおくりする人。  
今着く人をは。 むかへに、出た人。  
べんとー賣るのは。 はつびを着た人。  
手荷物かついで、 運ぶは赤帽。  
がらんがらんと、べるがなる。  
煙をはいて、汽車が来る。  
驛の名呼ぶ聲。 とびらのあく音。  
おりくる人人。 乗りこむ人人。  
あひたる喜。 わかるるかなしみ。  
あいさつさまさま、ことばも短く。  
やがて、汽車さり、人ちりて、  
あとを、驛夫が、掃除する。」

下巻

燈臺

5 1 3 2 1 6 5 6 6 6 1 5 5 5 0  
 ソキ ラニ ツキ ナホ シサヘ ナクテハ  
 キ メ シ コ ー ロ ス ス ミ テ ユ ケ

6 1 1 5 1 2 3 2 2 2 1 3 2 1 0  
 イッ スン サキ スラ ミニザルヨルニ  
 ア ほ く お き で ひ カ ギ ア ル あ れ ば  
 モ

5 5 3 6 6 5 3 2 1 2 3 5 6 5 0  
 オ キ ノ キ セ ン ヤ グ ン カ ン ナ ド ハ  
 お キ の き せ ン や ぐ ン カ ン ナ ド ハ  
 サ ハ ル コ ト ナ ク ソ タ ル ラ ウ ベ シ

3 2 1 6 1 5 1 2 2 2 1 3 2 1 0  
 ナ ニ フ メ ア テ ニ コ ー ロ フ キ ム ル  
 ソ れ を め あ ー に ー タ フ ト キ コ ト ヨ

下巻

十九

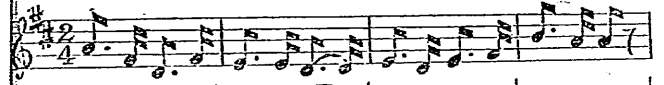
燈臺

空に、月なく、  
 一寸さきすら  
 沖の汽船や  
 なにをめあてに、  
 岸に、岬に、  
 遠く、沖まで、  
 沖の汽船や、  
 それをめあてに、  
 きめし航路を  
 浅瀬、暗礁、  
 さはることなく、  
 あー。燈臺の  
 星さへなくて、  
 見えざる夜に、  
 軍艦などは、  
 航路をきむる。  
 燈臺ありて、  
 光りてあれば、  
 軍艦などは、  
 航路をきむる。  
 進みて行けば、  
 数ある海も、  
 渡るをうべし。  
 貴さこそよ。」

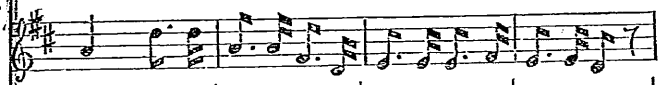
下巻

十九

# 新聞紙



5. 3 1. 3 | 2. 2 1. 1 | 2. 1 2. 3 | 6. 5 5 0 |  
 ト カ イ ノ コ ト モ 一 キ ナ カ ノ コ ト モ  
 カ ー ヒ ガ お は い ゴ ン ぬ す ン ジ ヲ が ヲ る ズ シ  
 ヒ ー ト ニ シ ラ レ ン



5. 1. 1 | 5. 5 3. 1 | 2. 2 2. 3 | 2. 2 1 0 |  
 セ リ ア チ ノ タ コ ク ノ コ ト モ  
 コ は い び ー が は や つ て き た ど  
 カ ゲ ニ カ タ レ タ ア ク ジ モ ツ ス



2. 1 2. 3 | 5. 6 5 | 6. 6 5. 3 | 5. 0 |  
 ヒ ト メ デ ワ カ ル シ ン ブ ン シ  
 カ ガ ミ ノ ヲ セ ヨ ー ナ シ ン プ ン シ



6. 0 1. 1 | 5. 5 3 | 2. 2 5. 5 | 1. 0 |  
 ア チ ョ ー ホ ナ シ ン プ ン シ  
 あ し ん キ ー つ な し ン プ ン シ  
 ア ア キ ラ カ ナ

## 新聞紙

都會の事も、  
 千里あちらの 田舎の事も、  
 一目で、わかる 他國の事も、  
 「火事が多いぞ。ぬすどがあるぞ。」  
 こはい病氣が はやつて來た。」と、  
 氣をつけさせる 新聞紙。  
 あー。しんせつな 新聞紙。  
 人に知られん 善事もうつつし、  
 かけにかくれた 悪事もうつつし。  
 鏡のよーな 新聞紙。  
 あー。明かな 新聞紙。

下卷

二十

下卷

二十一

軍人

下巻

3 - り 6 | り り 3 1 | 2. 2 2 3 | 2 2 1 | 5. 5 1. 1 | 6. 6 り | 1 3 | 2. 0 |  
 チュ キ ノ コー コロ イ ハ ヨ リ カ タ シ | グ ン ト シ モ ノ | ゴ ト ク |  
 ち ん の こー ころ い は よ り か た し | た い は そ ら に ひ び き

5. 5 6 5 | 1 3. 3 2 0 | 1. 3 2 1 | 2 1. 3 5 | 1. 1 1. 2 | 3. 3 2. 1 | 6. 6 1 | 5. 0 |  
 レ ツ フ モ ク ツ サ ズ | ヤ マ カ ハ フ ミ コ エ | ダ ガ ン ア ラ レ ニ | 6. 6 1 | 5. 0 |  
 へ さ き そ ろ へ て し ら な み け た て て | す い ら い う - み に と ぞ ろ り く

6. 6 5 6 | り. り 3 1 | り 1 3. 2 | 3 2. 2 1 0 | り. り 3 | 6. 5 3 | 1. 1 7. 1 | 2. 0 |  
 ス ス ヨ ス ス ヨ テ キ ジ カ ン メ ガ ケ テ | り か い セ ン | い ま な か ば

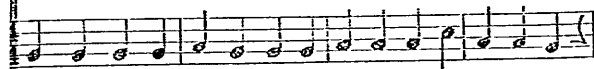
進ひよ、進ひよ、敵艦めがけて、  
 へささるへて、白波けたてて、  
 忠義の心、いはより、かたし。  
 日本軍人命をします。  
 風おこり、波さわぐ。  
 海戦、今、なかわく。  
 水雷、海に、ごぞろく。  
 大砲、空に、ひびき、  
 敵陣めがけて、  
 進ひよ、進ひよ、  
 山、川、ふみこえ、  
 列をもくづさず、  
 忠義の心、いはより、かたし。  
 日本軍人命をします。  
 陸戦、今、なかわく。  
 山動、川、ふるふ。  
 弾丸、今、にたり、  
 軍刀、霜の、ごとく、  
 軍刀、霜の、ごとく、

3. 2 | 1. 1 6 | り. り 3. 2 | 1. 0 |  
 ヤ マ セ ウ ゴ ころ | な み さ わ

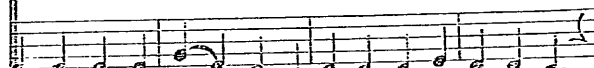
5. 5 5 3 | 2. 2 2 1 | 2. 1 2 3 | 6. 5 6 5 0 |  
 ニ ツ ボ ン グ ン ジ ン | イ ノ チ ラ フ シ マ ズ |  
 に つ ぼ ん ぐ ん じ ん | い の ち を し ます

下巻

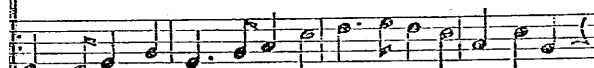
# わが帝國



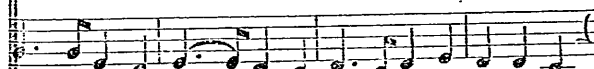
5 5 5 5 | 6 5 5 5 | 6 6 6 i | 6 6 5 0  
セカイニマタナキワガクニガラヨ



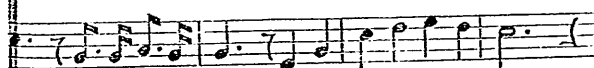
3 3 3 3 | 5 3 2 1 | 2 2 2 3 | 2 2 1 0  
タメシモアーラヌメイヂノミヨヨ



2. 2 3 5 | 3. 5 6 i | 2. 3 2 i | 6 i 5 0  
クモマニソビユルヤマノゴトクニ  
ノハラヲナガルルカハノゴトクニ



5. 5 3 2 | 3. 3 2 1 | 2. 1 2 3 | 2 2 1 0  
ウゴカズカハラスワガクニガラヨ  
ススミテヤーマヌメイヂノミヨヨ



0 5. 5 6. 5 | 5. 0 3 5 | i 2 3 2 | i - . 0 |  
ワガクニハヨキクニガラヨ  
ちのみよはさかゆるみよ

## わが帝國

世界に、またなき、  
ためしもあるぬ、  
雲間に、そびゆる  
動かす、かはらぬ、  
野原を流るる  
進みて、やまぬ  
あゝ。わが國は  
明治の御代は

わが國柄よ。  
明治の御代よ。  
山のでこくに、  
わが國柄よ。  
川のでこくに、  
明治の御代よ。  
よき國柄よ。  
さかゆる御代よ。

下巻

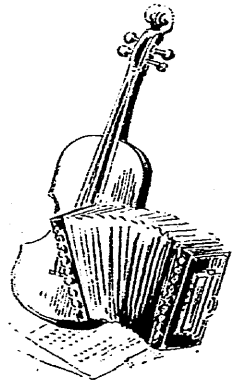
二十四

下巻

二十五







6